

神奈川版オープンイノベーションの今後の展開等について

これまでの経緯

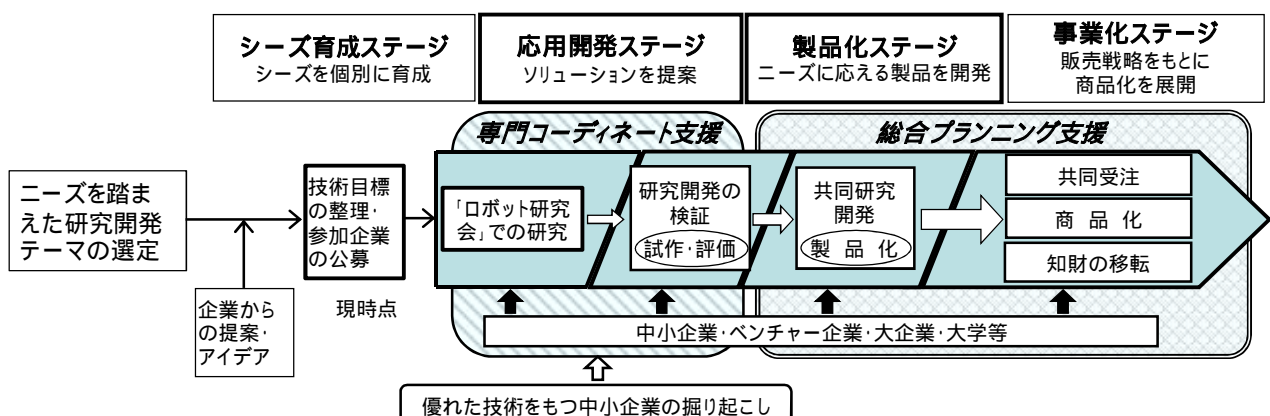
- H25.6.5 「さがみロボット産業特区」で「神奈川版オープンイノベーション」により共同研究開発を目指すロボットとして、「介護・医療」「高齢者への生活支援」「災害対応」の3つの分野における10件の研究開発テーマを発表
- H25.7.30 6月に発表した研究開発テーマごとの「ロボットのイメージ」「達成すべき技術目標」「必要な個別技術等」を発表し、共同研究開発への参加企業・大学等を募集（～9/6）
研究開発テーマごとの「ロボットのイメージ」「達成すべき技術目標」「必要な個別技術等」は<別紙>の通り。）

1 神奈川版オープンイノベーション「ロボット研究会」について

今後、研究開発テーマの技術目標や個別技術に対応できる企業や大学等が参加するロボット研究会を設け、生活支援ロボットの共同研究開発を目指す。

- (1) 共同研究開発までを見据えた企業・大学等の参加によるオープンな研究会を設置（研究会のもとに「介護・医療部会」、「高齢者生活支援部会」、「災害対応部会」を設置）
- (2) 参加企業による議論を経て、高度専門コーディネーター⁽¹⁾が、開発するロボットの優先順位や技術等の資源の最適な組み合わせを提案
- (3) オープンラボによる試作・評価
（その後、場合によっては、オープンな研究会ではなくクローズで展開）
- (4) 総合プランナー⁽²⁾の支援を受け、共同開発を実施
 - 1 高度専門コーディネーター：ニーズに対応したロボットを製作するための技術等の整理・マッチングを行い、研究開発のためのグループ化を促進するロボット技術に精通した専門家。
 - 2 総合プランナー：共同研究開発や販路開拓を見据えた商品化・知財支援等を行う実務経験者。

<神奈川版オープンイノベーションの流れ>



2 「ロボット研究会」座長・高度専門コーディネーターについて

(1) 座長について

ロボット研究会の活動を統括し、研究会の活動に対し助言を行う座長については、ロボット開発について幅広い知識があり、国家プロジェクトでの実績のある方の中から選任していく。

<候補者>

佐藤 知正 氏

- ・東京大学 フューチャーセンター推進機構 ロボット化コンソーシアム特任教授
- ・東京工業高等専門学校 特命教授
- ・元日本ロボット学会会長

(2) 高度専門コーディネーターについて

ロボットを製作するための技術・商品開発を担当し、関連技術のマッチングや製品化の実績のある大手企業のOBや技術士の中から選任(5名程度)

3 中小企業の技術の掘り起こし状況について

(1) 対 象 「さがみロボット産業特区」内の中小企業

(2) 目 的 中小企業等の技術連携による生活支援ロボットの研究開発促進のため、県内中小企業の優れた技術の掘り起こしを実施

(3) 実施方法 商工会・商工会議所を通じ、アンケートによる調査(5/22~6/28)

(4) 調査結果(回答のあった企業数 135社)

自社独自技術がある企業	65社
自社ブランド製品がある企業	55社
生活支援ロボット関連の製品・技術がある企業	13社
新分野・新規事業への関心の有無	
・関心があり、既に事業展開の準備を進めている	20社
・関心があり、将来事業展開したい	58社
・関心があるが、将来の事業展開は考えていない	43社
・関心がない・無回答等	14社
県のヒアリングに協力して頂けると回答のあった企業	86社

(5) 今後の対応

県のヒアリングに協力して頂けると回答のあった企業には、神奈川版オープンイノベーションの応募について御案内するとともに、必要に応じて産業技術センター職員が所有技術等についてヒアリングを実施する。

また、ロボット関連技術の情報提供の希望がある場合や商工会・商工会議所から新たに紹介のあった企業に対しては、産業技術センターからメールマガジン等で情報提供を行う。